

詩教材において生徒が主体的に読み深めるための授業の工夫

～ 学習課題の設定と相互交流の工夫を通して～

那覇市立松城中学校教諭 濱川 尚子

テーマ設定理由

大きく変化する社会に対応し、新しい時代をよりよく生きる力を育成するために、中学校国語科においては、言語教育の立場から、自らの力で文章を読み、ものの見方や考え方を広げ、自分の意見や考えをもつことのできる生徒の育成が求められている。このような社会の要請に応えるために、教師主導型の授業から、生徒主体の授業への転換が課題となる。

しかし、これまでの私の授業実践を振り返ってみると、「読むこと」の学習が、教師主導型の知識偏重の授業であったと反省させられる。詩の授業においても、一つ一つの言葉から想像し、じっくり考えながら読み、生徒自らが作者の心情に迫るような授業ではなかった。

あらためて詩教材の価値について考えてみると、詩は作者の思考や心情が短い語句に凝縮され、精選・吟味された言葉との出会いや、言語感覚を磨くなど、読むこと的能力を育成する上で効果的な教材になり得る。生徒は、作品中の言葉と主体的に向き合うことによって、想像力を働かせ、作者の思いに触れることができる。そして、自分なりに読み取ったことを他者との練り合いによって確かめ、より深く読み取っていく。このように詩教材においては、読み手側の主体的な学習を創り上げていくことで、より深い読みへと深化させ、ものの見方や考え方を豊かにすると考える。

詩の教材としての特色や魅力を生かして、教師が「教材を教え込む」ような授業から、生徒自らが考え、主体的に読み深める授業に転換したい。その手だてとして、書き込みや初発の感想を生かした学習課題を設定し、主体的に読む態度を培いたいと考える。その上で、自分の意見をもって相互交流を図れば、互いの感想や考えを尊重するとともに、多様な読みを取り入れて、より深く読むことができるであろう。このように、主体的に読み深める学習を積み重ねることは、自らの力で文章を読み、学年の目標である「読書を生活に役立て自己を向上させようとする態度」を育てることにつながると考える。

よって本研究では、詩教材を主体的に読む生徒を育成するために、書き込みや初発の感想を生かした学習課題を設定し、他者との交流を通して読み深める授業の工夫について研究したいと考え、本テーマを設定した。

研究目標

詩教材において、生徒が主体的に学習するために、書き込みや初発の感想を生かした学習課題を設定し、読み深めるための相互交流について研究する。

研究方針

- 1 生徒が主体的に学習できるよう、学習課題の設定を工夫する。
- 2 他者と練り合うことを通して、読み深めることができるように、個別、ペア、全体の学習形態をとり、主題を捉える視点で話し合わせるなど、相互交流を工夫する。

研究内容

1 主体的に読み深める

(1) 主体的に読む

読むという学習活動において、主体的に学ぶ姿や態度を「主体的に読む」と捉える。主体的な学習態度とは、一人一人の生徒がもっている力を精一杯発揮して、学習課題を自分のものとして受けとめ、意欲的に解決しようとする態度だと考える。それを踏まえ、主体的に読む態度とは、生徒が現時点での知識や体験をもとに、これまでに培ってきた読む能力を発揮して読み取り、疑問やもっと詳しく知りたい事など課題意識をもち、解決するために作品を読んでいく姿と捉える。

(2) 読み深める

読み深めている状態とは、作品の世界や言葉に真剣に向き合い、作者のものの見方や考え方に触れ、自らの在り方や生き方を振り返りながら読むとともに、他者との交流によって、多様な見方や考え方に触れ思考を広げ、主題により迫った状態だと捉える。それを踏まえ、詩を読み深めるとは、描かれている感動を言葉と関わりながら読み取り、相互交流の中で様々な解釈に触れ、鑑賞することの楽しさを知ると同時に、主題について考えるなど、感動の中心を捉えて自分の意見や考えをもつことだと捉える。

2 詩教材で何を教えるか

(1) 学び方を学ばせる

詩の特徴の1つは、言葉を厳選し構成を練って効果的かつ抽象的に表現していることである。そのため、語句に着目して想像したり、考えたりしながら読むことが必要となる。解釈には、読み手のこれまでの人生経験や知識、価値観などが反映されるため、学級全体では、多様で個性的な読みが生まれる。生徒は、他者の様々な解釈に触れることによって、これまで気づけなかった新たな視点を心得、読み深めることができる。その際、作者の意図や心情について考え、読み取ったことを吟味し練り合い、主題を捉えさせることが重要となる。そこで、どのように詩を学ばせよのかという視点を図1のように考えた。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1 構成を捉え、時間や場面、意識など内容や表現の変化を把握することによって、全体像をつかむ。2 表現技法や表記に着目し、表現の工夫に気づかせ、強調して表現していることの意図や効果について考える。3 語句に着目してイメージをふくらませ、作品の感動を受けとめ、自分なりの個性的な読みをするとともに、様々な解釈を認める。4 全体を捉えて主題に迫り、作品の価値を捉える。5 主題を捉え、読み取ったことを吟味し、読み深めて鑑賞する。 |
|---|

図1 詩を学ぶ視点

(2) 生き方を学ばせる

作者のものの見方や考え方を捉えさせるためには、その思いが凝縮されている言葉に目を向け、自分の生き方と関わらせて読むことが大切である。生徒は、その中で発見や共感、批判をしながら読み、自分の見方や考え方を広げていく。学習指導要領の解説をもとに、読むという行為について考えてみると、読むという学習活動では、「単に文章の表現過程をたどる」のではなく、読むことを通して「書き手の思考や心情に迫り」、読み手の立場

から「人間，社会，自然などについて考え，自分の意見をもつ」ことが重要だと言える。

詩を学ぶということは，作者のものの見方や考え方に触れ，それに対する自分の考えをもつなど，まさに，生き方を学ぶことである。そのためにも，もっている力を発揮して主体的に読み，それぞれの価値観に支えられた見方・考え方を交流し，主題に迫ることは，自己の価値観を見つめ，生き方を学ぶ意味で重要であると言える。

3 主体的に読むための手だて

生徒が主体的に読むためには，課題意識をもつことが重要だと考える。しかし，学習課題を教師が一方的に与えては，生徒が受け身になり，課題意識をもって主体的に学習することはできない。生徒が主体的に読むために，一人一人の課題となるよう，書き込みと初発の感想を生かして学習課題を設定する。

(1) 書き込み

書き込みとは，文章を読んで感じたこと，考えたこと，疑問に思ったことなどを行間や余白に，短い言葉で自由に書いていくことを言う。生徒は，書き込みを通して語句に着目しながら内容を読み取り，疑問や気づき，考えを書いていく。それを分類・整理することで，どこに関心を寄せているかなど，生徒の実態を把握することができる。

・ 詩形や詩の構成について発見
・ 題名についてイメージしたこと
・ 表現で気づいたこと，感じたこと
・ この気持ちわかるなぁと思ったこと
・ いいな，すてきだなと感じたこと
・ こんなのは嫌だと思ったこと
・ 疑問に思ったこと，もっと詳しく知りたいこと

図2 書き込みの視点

また，書き込みをすることにより，叙述に即して想像し思考するとともに，読み取ったことの根拠を明らかにできる点においても，効果的だと考える。

書き込みを生かして学習課題を設定する上で，配慮すべきことは，書き込みの例を挙げて視点を示すことだと考える。そうすることによって，生徒は書き込みの仕方を具体的に捉え，教師は学習課題に生かす見通しをもつことができる。そこで，図2のような書き込みの視点を提示する。

(2) 初発の感想

初発の感想は，第一次感想とも言われ，教材を初めて読んだ生徒の疑問や印象，感想などが，ある程度まとまった文章として表現されたものである。その中に表れている反応は，感覚的，直感的であり，素直な思いとして表現されている。その感想が，後の学習の基盤となって自分の読みをつくる手がかりとなる。

・ 書き込んだことを生かして書く
・ 詩全体の印象についての感想
・ 作者が一番言いたいことは何か，そのことについてどう思うか書く

図3 初発の感想をまとめる視点

生徒は，新しく出会った作品への新鮮な思いや共感，感動したことなど，全体を振り返って初発の感想を書いていく。そこには，作者のものの見方や考え方に対する感想や，詩の中心をどのように捉え，どれだけ主題に近づいているかなどが表現され，生徒の実態を把握する上で有効であるとともに，その捉え方を手がかりに課題を創ることができる。初発の感想に，詩全体の印象や，作者の思考や心情についての感想を表現させるために，図3のような視点を提示する。

できるだろうと考える。

課題を追求し、読み深めるためのもう1つの手だてとして、図6のようなワークシートを活用し、自分の考えをまとめさせる。

(1) 個別学習

読み深めるために、導入時と終結のまとめの時期に個別学習を行わせる。詩を読み深めるはじめの一步は、自分なりに読み取り、自分の考えをもたせることだと考える。その部分が、図5にあたる。まず、自分なりに考えなければ、他者の良さに気づき、新たな発見をすることはできない。現時点での自分の経験や知識をもとに、全力で言葉と向き合い、自分なりの読みを明確にするからこそ、他者の話に耳を傾け、自分の読みと比較して聞くことができるのではないだろうか。

ここでの個別学習は、学習課題について自分なりの考えをもち、ワークシートにまとめることが大切である。

そして、学習の最後に、自分の読みを確かめ、他者の良さを取り入れて読み深めるために、もう一度個別に思考し、作品に対する自分の意見や考えをもたせる。読み深めている状態は、独りよがりの見方や考え方ではなく、相互交流によって新たな視点をもち、自らの考えを高めている状態である。図5がその場面であり、学習の最後の感想として表現される。この感想から、読みの深化をみとることによって、教師は総括的評価をすることができる。同時に、生徒にとっては、自らの学びを振り返り、わかったことを確認する自己評価になると考える。

(2) ペア学習

ペア学習は、相互交流の最小のグループである(図5)。ペアで対話しながら学習課題に取り組み、協力し合って課題を追求するということは、必然的に全員が主役となって学習に取り組んでいくことになる。対話する際には、自分の考えを相手意識をもって伝え、聞き手の場面では、自分の考えと比べながら聞き取り、不明な点は聞き返したりするなど、他者との相違を明確にしていく。その過程で、詩を読み返すなど、互いの考えを確かめ、ひとり学びの読みを広げ、ペアとの読みをつくっていく。その手だてとして、それぞれのワークシートを交換し合って話し合わせるようにする。

ペア学習で配慮すべきことは、互いの良さを取り入れ協力してまとめるなどの作業的な学習を準備し、生き生きとした学習活動と学び合いの場を組織する事だと考える。また、ペアの考えが異なる場合には無理に1つにまとめず、それぞれ別々にまとめても良いことを伝えておく必要がある。

(3) 全体学習

全体学習の場では、ペアやグループの学習成果を学級全体の場で確認する。そこでは、

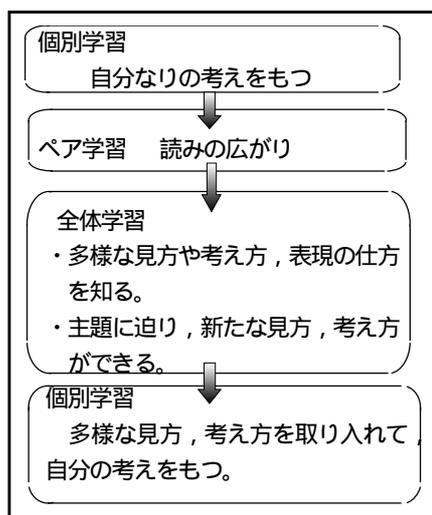


図5 読みの深化

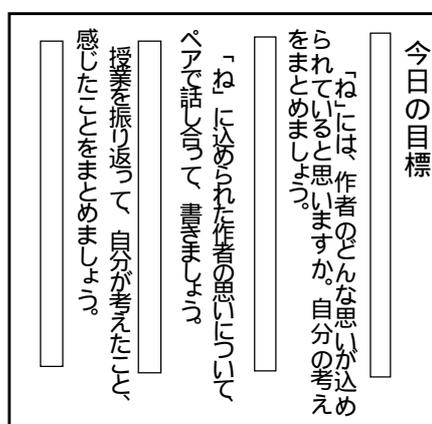


図6 ワークシートの形式

それぞれで話し合ったことが反映され、学級の多様な読みに触れ、様々な感じ方や考え方を交流し、思考の幅を広げることができる。その中で、不十分な理解や読み誤りが出たとき、思考を揺さぶり、問題点を浮き彫りにすることが重要である。そこで、個性的な解釈や多様な読みを認めながら作品の言葉に戻り、読み取ったことをもとに叙述に即して吟味するなど、練り合わせる。そうすることによって、作者のものの見方や考え方により迫った読みへと深まっていくと考える。

そのような学習は、読み手によって様々な解釈の仕方があることや、詩を鑑賞することの楽しさを知ると同時に、文脈に沿って読み、主題について考えることの大切さを理解するなど、詩の読み方を学ばせることになる。

授業実践

- 1 単元名 平和をもとめる
- 2 教材名 「わたしが一番きれいだったとき」 茨木のり子（教育出版）
- 3 単元目標 描かれたできごとを捉え、歴史的な意味を考えよう。
- 4 指導目標 構成を捉えて、作者の心情の変化を読み取り、「ね」に込められた前向きな生き方について考えさせる。

5 単元について

(1) 教材観

本教材は、かけがえのない青春時代を戦争で奪われた女性の、怒りや無念さが表現されると同時に、これからの人生を前向きに生きようとする決意がうたわれている。したがって、「反戦の詩」であるとともに「生き方の詩」でもある。作品の感動は、最終行の「ね」1文字に収められる。海外の戦場が報道され、戦争の恐ろしさや平和の大切さを考えさせられる今日、「ね」の問いかけは、生徒たちの胸に響くであろう。歴史や社会に目を向け始める多感な時期に、本格的な現代詩と出会い、作者の生き方に触れ、「平和をもとめる」ことについて意見をもつことは重要性であり、本教材はそれに適していると考えられる。

(2) 生徒観

学級の半数近くの生徒が、詩の読み方や学び方がわからないという学習前のアンケート結果を踏まえ、詩の学び方を学ぶとともに、詩の中に描かれている作者のものの見方や考え方に触れ、生き方について考えさせたい。そのために、自らの読む能力を發揮して、課題意識をもって言葉と向き合い、詩を読むことの楽しさを味わわせたい。そして、他者との関わりの中で、様々な読みに触れ、見方や考え方を広げるとともに、それに対する自分の感想や意見をもつことのできる生徒を育てたい。

(3) 指導観

本教材の学習を通して、読む能力を育成するために、主に3つの指導事項を焦点化して指導していく。1つはくり返しの表現や言葉の効果について理解を深めること、2つめは言葉に沿って作者の願いを捉えその生き方に触れて自分の意見や考えをもつこと、3つめは詩の言葉の豊かさを捉えて味わうことである。その手だとして、書き込みや初発の感想を生かして学習課題を設定し、主題に迫る場面において学習形態を工夫し、吟味し練り合うための相互交流を図る。その上で、題名と呼応する反復法に着目して「きれいだった

とき」という表現をおさえ、時間を軸に詩の構成を捉えることによって、作者の心情の変化に気づかせ、感動の中心「ね」に向かう授業の構成を考える。

6 指導計画

時	目 標	学 習 内 容	手 だ て 評 価
1 時 間	音読・黙読を通して気づき・発見し、描かれたできごとを読み取る。	1 単元目標を確認する。 2 範読を聞きながら、黙読する。 3 くり返し音読や黙読をして、書き込み、初発の感想を書く。 4 「きれいだった」に着目して描かれたできごとを読み取る。 5 学習のまとめ。	「平和」「戦争」についての連想を交流する。 書き込みや初発の感想を書く視点を示し、個別指導をする。 「きれいだった」を中心に、疑問や感想を発表させ、学習課題を創り、描かれたできごとについて考えさせる。 くり返し読んで、書き込みや初発の感想を書き、描かれたできごとを読み取ることができた。 Cア
2 時 間	連の構成に着目して作者の願いを捉える。	1 書き込みや初発の感想を発表し、学習課題を創る。 2 音読する。 3 詩を4つに分け構成を捉えながら作者の心情について考える。 4 「だから決めた」は何を受けているのか。また、どんな決意をしたのか考える。 5 ルオー爺さんについて考える。 6 学習のまとめ。	構成や作者の心情など疑問や感想を発表させ、学習課題を創り、作者の願いについて考えさせる。 反復法と時間や場面の变化に気づかせ、構成を捉えて心情の変化を読み取らせる。 接続詞を押さえ、7連の役割に気づかせる。 戦中・戦後の思いがバネになって現在決意するに至ったことを捉えさせる。「ね」には触れない。 ルオーの生き方を補足説明。絵を提示する。 詩の構成を捉え、時間や場面によって変化する作者の心情を理解することができたか。 Cエ・言(1)ウ
3 時 間 本 時	主題をとらえ、他者との交流を通して読み深める。	1 書き込みや初発の感想を発表し、学習課題を創る。 2 黙読し、「ね」に込められた作者の思いについて自分の考えをまとめる。 3 「ね」に込められた作者の思いについてペアで話し合い、短冊にまとめる。 4 全体の交流で、作者の思いを焦点化し、決意、願い、訴えなどと整理する。 5 範読を聞きながら黙読する。 6 学習のまとめ。	「ね」についての疑問や感想を発表させ、学習課題を創り、作者の前向きな生き方について考えさせる。 最終連に目を向けさせ、「反戦の詩」であり「生き方の詩」でもあることを捉えさせる。 ペアの相違を聞き分け、読み広げさせる。 他者の良さを取り入れ、主題に迫りながら吟味し、作者の思いが前向きであることに気づかせる。 次時の導入で、感想をまとめさせる。 作者の決意を理解し、主題を捉えることができたか。 Cエ

7 評価計画

時	評価規準・観点	判断基準 (A十分達成・Bおおむね達成・C手だて)	評価の方法
1 時 間	くり返し読んで、書き込みや初発の感想を書き、描かれたできごとを読み取る。 Cア	A 多様な視点で書き込み、自分なりの感想を書き、描かれている事を捉えている。 B 語句の意味を理解し、感じたことや考えたことを書き込み、自分の感想を持ち、描かれているできごとを捉えている。 C 自分の疑問を大切にしながら、詩の言葉に着目させて、書き込みや感想を書かせ、戦争を背景にした作品であることを捉えさせる。	書き込み・初発の感想

2 時 間	詩の構成を捉え、 時間や場面によ って変化する作 者の心情を理解 する。 C工・言(1)ウ	A 自分の読みに新たな視点を取り入れながら、詩の構成を捉え、戦中戦後の無念さをバネに決意し、心豊かに生きたいという前向きな願いを理解している。 B 他者の考えをていねいに聞きながら、詩の構成を捉え、作者の心情の変化を理解している。 C 時間や場面によって作者の心情が変化していることに気づかせ、過去を乗り越えて生きようとしていることを友だちの発言から気づかせる。	ワークシート
3 時 間	作者の決意を理 解し、主題を捉 える。 C工	A 「ね」に込められた前向きな決意を受けとめ、自分の生き方と重ね合わせて読み、意見や考えをもつ。 B 他者の考えをていねいに聞き、「ね」に込められた前向きな決意について考え、自分なりに感じたことをまとめる。 C 「ね」に込められた決意が、前向きな姿勢を示すことを友だちの発言から気づかせる。	ワークシート・感想

8 本時の学習

(1) 目標

「ね」にこめられた作者の思いが、前向きな生き方の決意であることを捉える。

(2) 本時における具体的な手だて

主体的に参加させるために、書き込みや初発の感想を発表させ、学習課題に取り組みさせる。主題を捉える場面において、最終行の「ね」に着目し、自分なりの考えをもたせる。個別、ペア、全体など、学習形態を工夫し、自分なりの読みを発表するとともに、他者との交流を通して互いの解釈を認め合い、新たに読み深めさせる。

(3) 本時の展開

	学習活動	教師の発問 予想される主な反応 学習活動への支援 個別の助言	留意点
導 入	1 前時を振り、 学習課題を設定 する。 一斉	前時の学習を振り返らせ、生徒の見方をほめるとともに、本時の課題につなげる。 「ね」についての書き込みや初発の初発の感想を発表させ、疑問や感想 から学習課題を創る。 自分たちの書き込みや感想から学習課題が設定され、主体的に取り組みようとする。 発表を聞きながら、新たに気づいたことや感想をメモさせる。	・ 詩の言葉を押さえ、読みながら振り返る。 ・ ワークシートを配布する。
	今日の目標 「ね」に込められた作者の思いについて考えよう。		
展 開	2 黙読し自分の 考えを書く。個別	作者は「ね」にどんな思いを込めているのでしょうか。黙読して、自分の考えをワークシートに書きましょう。さっきの友達の考えを参考にしてもいいですよ。 自分のペースで黙読し、作者の思いを考えさせる。 「わたし」の青春時代を奪ったもの、その原因は何？ (1)平和の大切さ 戦争を二度としてはいけない。 作者が自分自身に言い聞かせているとしたら、どんな気持ちを込めているかな？ (2)生き方 ルーオ爺さんのように好きなことをして長生きしたい。	・ 学習の遅れがちな生徒から、机間指導を開始する。 ・ 前時の学習「絵
	8 連があるのとないのとでは、詩の印象が違ってくるのでは？	学習の進んでいる生徒に助言し、「平和の詩」「反戦の詩」と同時に「生き方の詩」とも読めることに気づかせる。 (3)その他(平和の大切さと生き方の複合型) 戦争は苦しみや悲しみばかりだ。けれど、戦争のショックから立ち直って、前向きに生きて行こう。	い」と捉えた生徒に机間指導を行う。
	3 ペアで話し合 い、短冊に書く。 ペア	ワークシートに書いたことを交換して、「ね」について隣の人と話し合しましょう。	を描きた

展 開	4 「ね」に込められた作者の思いを発表する。一斉	話し合ったことを発表しましょう。 多様な解釈を認めつつ、「ね」には、前向きな思いが込められていることを捉えさせる。	・ 詩の鑑賞の楽しさを味わわせる。 ・ 教師の解釈を範読に込める。 味わいながら読んで
	5 範読を聞きながら黙読する。一斉	空白や「ね」に込められた作者の思いを受け止めるために、範読の前に生徒から出されたキーワードを認め、生かして行く。 みんなが読み取ったことを大事にして、きましょう。	
終 結	6 学習のまとめ	授業を振り返って自分が考えたり、感じたことをワークシートに書きましょう。 書く視点を例を挙げて示す。 ワークシートの中からいくつか発表させ、学習をまとめる。	ワークシート 評価 C E

結果と考察

検証 1

書き込みや初発の感想を生かした学習課題を設定すれば、主体的に読むであろう。

生徒の中に新たな疑問や読みのズレを生じさせるよう、「ね」についての書き込みや初発の感想を8名の生徒に発表させ、学習課題を設定した。この課題解決に主体的に取り組むことができたかどうかを生徒Mの学習する姿と、生徒たちの学習を振り返っての感想から検証する。Mは日頃から筆記用具がそろえられないなど、学習意欲がとぼしい。また、事前のアンケート調査から、詩の学習に対して苦手意識をもっていることがわかった。

【結果 1】

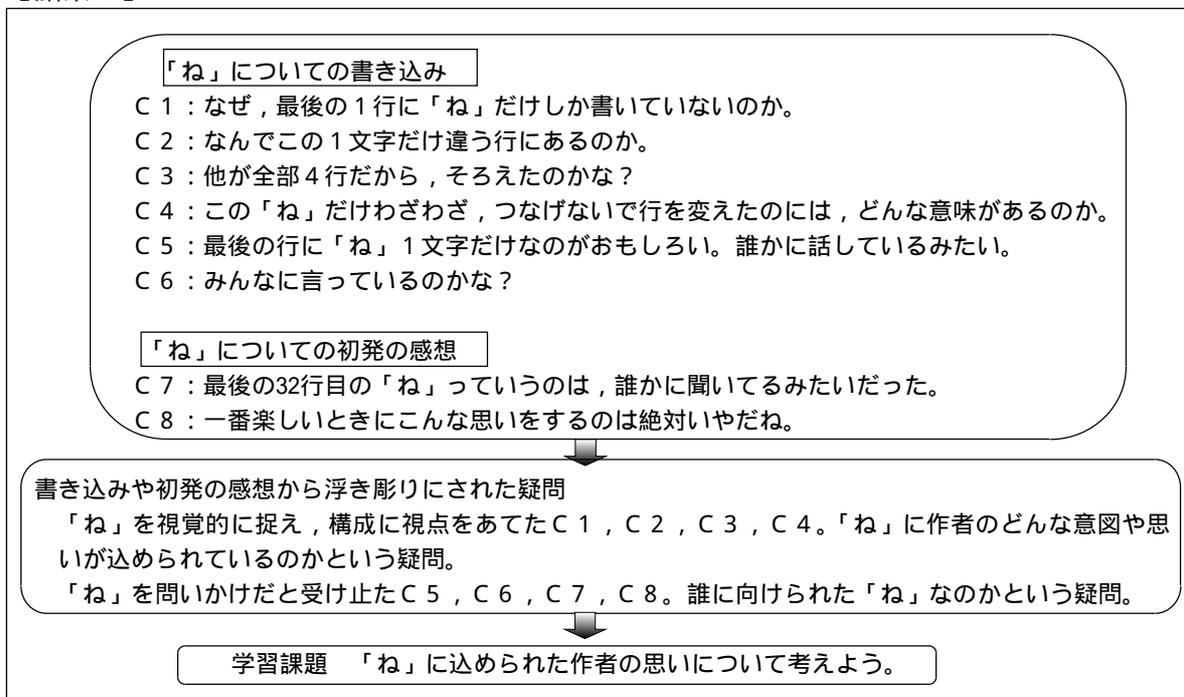


図 7 書き込みや初発の感想を生かした学習課題

「ね」に込められた作者の思いの捉え方
 ずっとつらい思いをしてきたから、自分以外にも自分の思いを教
 Mへの個別指導と学習参加の様子
 Mはペア学習で考えを交流しまとめる場面で、どう書いてよいかわからない様子であった。机間指導で、
 本人の書いた文章を捉え、「つらい思いなの？」と教師が問いかけたところ、Mは「違う」と即答した。そ
 して、首をかしげながらなお考え続けた。間をおいて再度Mに、「『つらい思いをしてきた』と自分で書い
 ているけど、『ね』に込められている思いは、みんなに何かを伝えたいの？」と問いかけたところ、今度
 は否定せず、首をかしげながら考えている。さらに、自分なりに考えをまとめようと思し続け、全体で
 交流し、吟味し始めてからしばらく経過した後に、短冊を書き上げ自ら黒板に貼り出した。そして、授業
 後もう一度黒板に寄ってきて、自分の発表した短冊を読み返すよう
 Mのまとめた短冊
 自分が体験したつらい思いをこれから生きていく上での決意を伝え

図8 Mの課題解決の様子

・自分の書いたものが学習課題の参考になるのは、すごく意欲がわ
 ・みんなが一番興味のあることについて、くわしく授業をしてよか
 ・学習課題を設定することによって、自分の疑問がわかりやすくな
 ・目標を達成できるように頑張った。

図9 学習課題についての感想

C1：ルオー爺さんの絵がどんな絵が少し見てみたい。あと、茨木のり子の作った詩も読んでみたい。
 C2：最初は自分にはあまり関係ないと思っていたけど、この授業を通してみんなに関係あると思った。
 もっと戦争の本を読もうと思った。
 C3：詩だけでこんなに楽しいと思ったことは初めてだった。自分はこの詩と出会わなければ、詩がお
 もしろいものとは思わなかった。
 C4：1つの詩でいろいろな事を思った。言葉ってすごいなあと思
 C5：もっといろいろな詩を読んで、その詩の意味について考えて
 C6：詩の授業を通して、私は詩が好きになった。これからは、たくさんの方が書いた作品が読みたい。

図10 学習を振り返っての感想から

【考察1】

初めMは、「ね」について書き込みをしていなかったが、第3時に新たに書き込みを加え「決意している」と記している。第1時の時点で課題意識をもっていなかったMは、図7の学習課題を設定する過程で、Mの内部に読みのズレや読みの葛藤が生まれた。そして、「ね」に目を向け、自らの課題としたことにより、図8にあるような学習態度として現れたのではないかと考えられる。Mは「ね」に込められた思いが、「つらさ」ではないと感じながらうまく書き表すことができずにいたが、学習課題を追求し続ける姿が見られた。しかし、なかなか表現できずにいたため、教師の「みんなに何かを伝えたいの？」という支援を受け、「伝えたい何か」が何なのかと自問を繰り返し、じっくりと考え続けた。自分なりに納得いく考えに達したとき、M自ら短冊を書いて黒板に貼り出し、満足げな表情を見せたと思われる。

このような姿は、Mばかりでなく、他の生徒にも見ることができた。図9は、書き込みや初発の感想を生かして、学習課題を設定した事に対する生徒たちの感想である。「自分の書いたもの」「みんなが一番興味のあること」「自分の疑問」という言葉から、自分たちの疑問や感想から学習課題が設定され、一人一人の課題となり「意欲がわく」「よかった」「頑張った」という感想に結びついたと考えられる。その意欲は、3時間の授業だけでなくその後の学習へと発展したことが、図10から伺える。C1は、作品中のルオーや茨木のり子の他の作品へと興味を

向け、「見てみたい・読んでみたい」と記している。また、C2は、作品を自らの生き方と重ねて読み「みんなに関係ある」事だと受けとめ、さらに考え続けるために「もっと戦争の本を読もう」と記述している。C3は、作品と出会えたことを喜び「楽しい」「おもしろい」と感想を述べ、C4は、言葉の豊かさに感動し「言葉ってすごい」と表現し、言葉と向き合うことによって、詩の魅力に気づき始めたと思われる。C5やC6は、「もっといろいろな詩を読んで」そのことについて「考えてみたい」と感想を書いたり、「たくさんの人の書いた作品が読みたい」と他の作品や詩人へ興味や関心の対象を広げている。このような感想は、課題解決に主体的に取り組んだことによって生まれ、興味・関心の高まりが読書へと発展し、自ら文章を読もうとする意欲が喚起された姿と捉えられるのではないだろうか。

以上のようにMをはじめ、他の生徒たちの姿や態度は、自分の課題として最後まで追求するものであり、主体的な読みの姿と捉えることができる。それは、教師によって一方的に与えられた課題ではなく、書き込みや初発の感想が生かされ、個々の疑問や感想が全体の中で位置づけられて、自らの課題になり得たことで培われた主体的な学習態度だと考える。

検証2

個別、ペア、全体の学習形態をとり、自分なりの考えを他者と相互交流すれば、読み深めることができるだろう。

最終行の「ね」に着目し、相互交流をすれば、作者の決意が前向きな生き方であることに気づき、主題を捉えて読み深めることができるであろうと考えた。そこで、Yの読み取りの変化と生徒の相互交流を振り返っての感想から検証する。

【結果2】

個別学習 この「ね」には、作者が「年とってからルオー爺さんのようになんかすごい事をしようね」の「ね」だと思う。
 ペア学習（短冊で発表） 自分はこんな決意をした。めちゃくちゃ苦しい思いをしたことをみんなに訴えたい気持ち。
 個別学習（全体学習の後の振り返り） 「ね」について考えた自分の意見と、友達の意見を読み合って、ふたりの答えを合わせて短冊にするのはいいな、と思った。「ね」の一言でこんなに深く考えられるんだと思った。
 最終の感想 最初このタイトルを見て、自分は「明るい感じの詩かな？」と思った。でも本当は、私が一番きれいだったとき、戦争が起こっていたという事で、なんてかわいそうだったんだろう、なんて不幸だったんだろうと思った。でも最後の「ね」を見て、前向きに希望をもって生きようとするこの人を見て、強いなあ、たくましいなと思った。この人の望み通りずっと長生き

図11 Yの読み取りの変化

ペア学習について

C1：今までの授業だと自分で書いて終わりだったけど、ペアで交換が出たので良かった。

C2：ペアの人と話し合って、こんな風に捉えてるんだって思った。

全体学習について

C3：みんなと交流することで、自分では気づかなかったようなもの

C4：自分とは違う意見を聞いたりして、自分の発想で思いもつかな

C5：何度も読み返したり、みんなと考えたりして、詩にこんな深い

C6：自分が考えたことをみんなに伝えたり、みんなの発表を聞いた

C7：最初は理解するのに苦労したけど、みんなと話合っていくう

図12 相互交流を振り返っての感想

【考察2】

図11より、Yは初めの個別学習で「ね」について「なんかすごい事をしようね」と作者の前向きな生き方に近い解釈をしながら、ペアの読みに影響されて短冊に「苦しい思いをしたことをみんなに訴えたい」とまとめている。この段階のYの読みは、確固たる根拠がなく、感覚的に作者の思いを捉えているため、ペア交流で相手の考えに影響を受け、考えが揺らいだと思われる。その後、学級全体の相互交流で学級の多様な読みに触れ、「つらい思い」と記された短冊に目を向け、「つらい思い」かどうかを吟味し、作者は「ね」にどのような思いを込めたかについてあらためて話し合った。話し合いでは、詩の構成と作者の心情の変化を確認するとともに、「ルオー爺さんのように」と「決意」が述べられていることから、前向きな生き方でなければならないことに気づいていった。このように、初め自分の読みに確信がもてなかったYが、主題に迫ることができたのは、個別・ペア・全体の学習形態の中で、自分なりの読みを相互交流することで、根拠を明らかにしながら、主題に迫る話し合いをすることができたからではないだろうか。

また、図12の感想より、C1の「今までにない考え」やC2の「こんな風に捉えているんだ」という表現からペア学習で他者の考えを知り、ひとり学びを広げたことがわかる。そして、C3の「自分では気づかなかった」C4の「自分と違う意見」からは、学級の多様な読みに触れ、新たな視点を得たことが認められる。C5の感想は、相互交流の過程で詩を「何度も読み返し」ながらみんなの考えを聞き、読みが深化していくことに対して「こんな深い意味があったんだ」と新鮮な驚きを表している。そして、相互交流によってC6は「考えが深まった」とし、C7は「前より理解できた」と自らの学習を振り返っている。

以上のように、個別・ペア・全体の学習形態をとり、主体的に課題追求に取り組み、自分なりの考えを相互交流することにより、主体的に読み深めることができたと考える。

研究の成果と課題

1 成果

- (1) 3時間の詩の学習において、書き込みや初発の感想を生かした課題設定の工夫を行い、生徒の主体的な読みを培う授業づくりができた。
- (2) 個別・ペア・全体の学習形態を取り入れ、自分なりの読みを相互交流させることで主題に迫り、読み深めさせる支援ができた。

2 課題

- (1) ペア学習からグループ学習へと発展させ、生徒同士で交流し、深めていけるような相互交流の手だての研究。
- (2) 指導と評価の一体化を図り、目標を十分達成できない生徒への手だて。

《主な参考文献・資料》

「中学校学習指導要領（10年度12月）解説一 国語編一」	文部省	東京書籍	1999
「国語科授業活性化の探求」	渡辺春美	溪水社	1993
「市毛勝雄著作集第3巻 文学教材の授業改革論」	市毛勝雄	明治図書	1997
「国語科授業構築のための原理と方法『目標の二重構造化』を画った授業の創造を目指して」	世羅博昭		2002